

第5回 幼・保・小合同研修会だより

日時 令和5年11月20日(月) 午後3時～午後4時40分
場所 ニコニコ子ども館5階 ふれあい学級
(オンラインとのハイブリッド研修)



教育講演

発達特性のある子どもたちへのかかわり方と支援の在り方

宮城教育大学 教職大学院 教授 植木田 潤 氏

講師の 植木田 潤 先生は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所教育相談部研究員を歴任。人との繋がりをベースとした心の育ちと学びの発達に対する臨床実践を研究テーマとし、発達障がいをもつ子どもの対人関係におけるつまづきや、学習の困難さから生じる二次的な障がいの理解と適切な支援のあり方について研究を深められています。今回は、学習障害(LD)、自閉症スペクトラム障害(ASD)、注意欠如/多動性障害(ADHD)等の発達障害それぞれの認知特性を踏まえた支援や配慮の在り方について、特性に沿ったポイントや全体に共通するポイントを押さえた児童生徒への関わり、環境づくり、保護者の支援等、多面的な視点から、具体的に実践のヒントを教えてくださいました。

※参加者→幼稚園・保育所(園)・認定子ども園・小学校関係者等 67名(内オンライン研修44名)

【講演の主な内容】

- 発達障害と認知特性
- 支援・配慮のポイント
- 健やかな発達に欠かせないもの
- 今日のまとめ

「きいて」理解するチカラ
と
「みて」理解するチカラ
の差(ギャップ)が大きいと生きにくい!

苦手・できないことをなくすことに時間と労力を費やすことよりも、得意・強みを伸ばすことに、時間と手間をかけたらい!

支援のゴール

- ▶ 将来を見据え、自分に何が必要か分かるためには、自分のことを深く理解できている必要があり、そのためには、自分を理解してくれる誰かを必要としている
- ▶ 応える大人がいること、寄り添うその人との信頼関係(安全の基地)を起点として、主体的に生きられることを支援する

↓
主体性を育てる=生きる力の土台作り

■発達障害と認知特性

- ・ 発達障害においては、苦手・できないことに時間と労力を費やすことよりも、得意・強みを伸ばすことに、時間と手間をかけたらい。特に、子どもの時から好きなことを見つけさせておくことが大切である。

■支援・配慮のポイント

- ・ 認知特性を踏まえた配慮の全体的なポイントとしては、「自由に」「好きに」決めさせるのではなく選択肢を用意したり、「してはいけない」ことを伝える際には「してほしい」「してもよい」ことも伝えるようにしたり、具体物(絵や写真)や数値等を示しながら説明したりすることが大切である。

■健やかな発達に欠かせないもの

- ・ 障害のある子どもは、子どもたちそれぞれの固有の言動の背景にある、学びにくさや生きにくさを理解し、共感してくれる存在を必要としている。安全感・安心感を提供する良き理解者に支えられることを求めている。

【アンケートから～参加者の声～】

- 研修を通じて特性の理解を深めるとともに、子どもたち一人一人の家庭環境や保育園での関わり、人的環境を見直しながら自己肯定感をもって過ごせるように関わっていただけると感じました。そのためにも、特性の理解と関わり方を子どもたち一人一人の困り感に合わせた保育を提供できるようになりたいと思います。(保育士)
- 大人である自分たちが子どもに安全感と安心感を与えられるように共感してあげたり、支援や配慮をしてあげたりすることが大切だと分かりました。(小学校)